

# 防災無線

防災無線は災害時に町からの情報を得る重要なツールです。平常時には町内のイベント情報などのお知らせが中心となっていますが、いざという時には命を守る重要な情報源。今回の特集では防災無線についてお伝えします。



## ご家庭に受信機はありますか？

災害時に情報を共有するための無線通信システム、防災無線。正式には「防災行政無線」といいます。

大口町では災害時の緊急情報を「町内屋外拡声子局（防災スピーカーカー）町内18か所に設置」と「戸別受信機」の2つの方法で聞くことができます。

有事の際は「緊急地震速報」や「避難に関する情報」など、緊急の防災情報をサイレンや音声でお知らせします。しかし、屋外放送だけでは豪雨や台風時は音がかき消されてしまったり、密閉度も高くなった今の建物では聞こえづらいため、避難情報が伝わらない場合もあります。このため大口町では、平成4年から戸別受信機を導入し、幅広い世代の世帯に無償で貸与しています。

普段は行政情報が流れるため、各ご家庭で毎日聞いているという方も多くいらっしゃいます。

## 定時放送

戸別受信機が災害時に確実に作動することを点検するための試験放送を兼ねて、平常時に毎日「定時放送」をおこなっています。1日2回、午前7時20分と午後7時15分にそれぞれ約5分間、役場担当課職員4人が交代で、町からのお知らせやイベント情報を放送しています。

以前は1回に最大5つの情報をお届けしていましたが、住民の方より「もっとゆっくり話してほしい」との要望もあり、現在は1回に最大4件の情報を流しています。「放送は、番号をつけ、一つの行事ごとに録音します。録音した中から今日は何番と



▲戸別受信機

何番とをセットし、その回の放送内容を組みます。放送内容は全て同じ日に録音するのではなく、何日かに分けて録音しているのです。一つに組んだときに自然に聞こえるよう、声のトーンや大きさをそろえるよう工夫をしています」と担当課職員。

また、「定時放送」とは別に「臨時放送」もおこなっています。これは「食中毒警報」や「熱中症警報」「尋ね人」「不審者情報」など町から住民のみなさんに緊急でお知らせしたい重要な情報が随時放送されるので、注意して耳を傾けていくべき。

### 防災に役立つ戸別受信機

本来の防災無線の役割は、行政が



災害発生時に災害情報を地域住民や関連機関と共有するためのシステム。災害時には、避難情報、災害対応情報、復旧・復興情報を伝えることを目的に使われます。

大口町では平成3年に防災無線を整備し、平成4年に運用を開始しました。性能をより向上させるため、平成24年よりデジタル方式へ改修しました。

戸別受信機は、コンセントから電源をとる方法と非常電源として電池を入れて使用する方法があります。災害や落雷等により停電した際にも電池で使用することができ、安心です。

現在、戸別受信機（一基4万円相当）の普及率は45%。各ご家庭や事業所に1台無償で貸与していますので、まだお持ちでない場合は町民安全課（95-1960）までお問い合わせください。

### 取材にて

昨年9月に最大震度7を観測した北海道地震では、大規模な土砂崩れのほか、過去に例のないブラックアウト（大規模停電）が発生し、道内



### 防災スピーカー（18箇所）設置箇所



### サイレンの鳴り方

- 15秒休止  
ウー(45秒) ..... ウー(45秒) 9回くり返し  
東海地震警戒宣言発令  
地震防災信号
- 2秒休止  
ウー(3秒) ..... ウー(3秒) 9回くり返し  
風水害、土砂災害時の避難勧告  
避難指示  
避難信号
- 6秒休止  
ウー(5秒) ..... ウー(5秒) 6回くり返し  
災害発生による消防団員の招集  
出動信号
- 全国瞬時警報システム J-ALERT (ジェイ・アラート)
- 有事情報  
●弾道ミサイル情報  
●ゲリラ・特殊部隊情報  
●航空攻撃情報  
●大規模テロ情報
- 自然災害  
●緊急地震速報  
●東海地震予知情報  
●東海地震注意情報
- ブー(14秒) 音声放送 ウー(14秒) 3回くり返し
- ピロポロン(4回) 音声放送 ピロポロン(4回) 3回くり返し

295万戸が停電しました。約2日で電力は復旧しましたが、しばらくの間節電が必要な日々が続いたそうです。災害時には携帯電話やスマートフォン、タブレット、パソコンも平常時と同じように使えるとは限りません。電池でも受信できる戸別受

信機は地域の災害情報や避難情報などを確実に配信できます。有事の備えに、避難経路の確認や持ち出し袋の用意とともに情報面での防災対策も備えておきましょう。